

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0171300072		
法人名	メリーライフ 株式会社		
事業所名	グループホーム 里の家 大曲		
所在地	北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2-2 (電話) 011-377-8373		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年1月11日	評価確定日	平成20年2月8日

【情報提供票より】 (19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年12月20日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤	21人, 非常勤 0人, 常勤換算20.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨構造S構造 造り		
	2階建ての1階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000~27,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷金	有 ()	無 ()	暖房費(11~4月) 7,000円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 無 ()	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり			円

(4) 利用者の概要 (1月1日現在)

利用者人数	27名	男性	7名	女性	20名	
要介護1	8名	要介護2	6名			
要介護3	4名	要介護4	5名			
要介護5	4名	要支援2	0			
年齢	平均	82.9歳	最低	62歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	輪厚三愛病院・いなむら皮膚科医院・エスポワール北広島・清田整形外科病院
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは、親族が経営する病院の受け皿として、認知症の人達が生き行く過程を支える介護の必要観から、小樽市にグループホームを開設し翌14年に当ホームに開設に至った。設立の趣旨から利用料金を低額に抑え、食事と行事の充実を図っている。食事は、季節の食材を取り入れた盛り付け映像を本部に送り、法人内12ユニットで利用者が望む満足度を基準に食事作りを迫している。行事は、季節折々に月3回は実施し、季節を感じ気分転換を図るばかりか、職員との喜怒哀楽の共有を通して精神的安定感を生みだしている。母体が主催する内部研修により職員は介護に対する高いモラルを持ち、利用者本位のケアサービスの提供が行なわれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 管理者は外部評価の結果を総括本部に報告し、本部では改善課題は法人全体の課題として、「短期的・長期的展望にたった改善計画」を立て事業所に戻している。「鍵のないケアの実践」は、「生命を守る」、「自由な暮らし」の二者択一とはならず、長期展望に立ち継続検討になっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を全職員に周知し、ガイドブックより評価項目をコピーし評価用紙とともに配布している。職員は「考え方の指針」をもとにケアサービスの提供状況などについて記載し、それをもとに全職員で話し合いしたものをリーダーがまとめ自己評価表の作成に至っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の主旨、方針を明確にし、委員を委嘱・構成して19年5月に初開催し以降は2ヵ月隔に開催している。ホームの近況報告や月行事、防災、自己外部評価を始め、認知症について理解を得るとともに、地区高齢者の実態などについて話し合われている。会議の内容は、管理者より議事録とともに口頭で全職員に報告がなされ、ホームの運営に反映しケアサービスの質向上に活かしている。グループホームの役割などの理解が深まりつつある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームには意見箱を設け、総括本部には相談窓口の電話回線を設けている。重要事項説明書には、ホームと公的機関の苦情受け窓口と苦情発生時の手順、処理方法を示している。日常的には、家族が何でも言って頂ける関係作りが構築されている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、ゴミ拾いやバーベキュー交流会を始め町内会行事や保育園行事に参加するとともに、ホームイベント「祭り」には地域住民が参加し、交流が行なわれている。また、利用者の馴染みの場所、施設、人との繋がりを大切に、地域生活の継続支援と事業所と地域との関係強化が行なわれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に掲げた理念をもとに、利用者に視点をあて組織全体が一体となり意欲的に取り組んでいる。地域密着型サービスとしての理念の見直しは行なわれていないが、運営方針の中で地域に根ざすことを目標として展開している。	○	地域密着型サービスとしての事業所の役割は、運営方針に示しすでに実践しているが、運営の根幹となる理念の中に明確に示すことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、申し送り、ユニット会議などで理念を掘り下げケアについて意識の統一を図っている。また、毎朝の申し送りには理念の読み合わせを行ない共有、実践に取り組んでいる。職員は理念の具現、実践に向けての横の体制は確立している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、ゴミ拾い、バーベキュー交流会を始め町内会行事や保育園行事に参加するとともに、ホームイベント「祭り」には地域住民が参加し、交流が行なわれている。また、利用者の馴染みの場所、施設、人との繋がりを大切にし、地域生活の継続性を図る支援を行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を周知し、評価項目の「考え方の指針」を明確にするとともに評価用紙が配布され、各職員の記載内容をもとに全職員で話し合い、リーダーがまとめている。なお、改善したい項目については、総括本部の「短期的、長期的展望に立った改善計画」をもとに組織全体で取り組んでいる。		

北広島市 グループホーム 里の家大曲

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の主旨、方針を明確にし、委員を構成し19年5月に初開催し以降は2ヵ月隔に開催している。ホームの近況報告や月行事、防災、評価を始め、認知症について理解を得るとともに地区高齢者の実態などについて話し合われている。会議の内容は、管理者より議事録とともに口頭説明が行なわれ、ホームの運営に反映している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員とは、本部課長が定期的に訪ね管理者が必要時に出向き、ホームの現状を共有している。市と事業所の相互の課題は相互気軽に相談できる協働体制ができている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時や定期的な電話連絡により、利用者の生活の様子や心身の状況を包み隠さず報告している。月に1度は請求書、預り金出納、領収書、写真満載の「里の家だより」を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームには「意見箱」を設け、母体本部には相談窓口の電話回線を設けている。重要事項説明書には、ホームと公的機関の苦情受付の窓口と苦情が発生した場合の手順、処理方法を示している。日常的に何でも言ってもらえる関係作りが構築されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、サービス確保の中核に職員と利用者の馴染みの関係作りと踏まえ、勤務内容を調整するなど異動を最小限に抑えるよう努めている。止むなき時の対応として、平素よりユニット間の交流を盛んにし、ホームの全職員と利用者の馴染みの関係を築いている。近年の職員離職は極めて少ない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の受講を推し進め、受講後の資料配布や報告会を通し内容の周知を図っている。内部研修では、母体が主催する研修会が月1回行なわれ、各ユニットより1名が出席し、指定の評価項目について取り組み内容のレポートを作成し、それをもとに話し合い評価を活かして、職員の資質向上を図りサービスの質向上に繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会が年3回開催されている。当初は管理職が中心であったが職員にまで拡大し、施設見学・研修を通じた交流の場になりつつある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の9割は病院からの入居者であり、安心、納得のいく入居にはなっていないが、入居後のコミュニケーションを通して馴染みの関係作りに努めている。家族の宿泊支援の協力もお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の一連活動や菜園活動などの場面で、利用者に教えを受けともに支え合う関係を築いている。利用者の気持ちに寄り添い喜怒哀楽を共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の会話や係わりの中から表情やしぐさ、反応など細やかな変化を観察し、利用者の立場に立って思いや、意向の把握に努めている。家族よりの情報も大切に利用者の立場になり検討し、ケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員は理念の実現に向けて日々介護しており、その気付きや家族からの情報をもとに、日頃から活発な意見やアイディアの交換を行ない、ケアプランに反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は毎日の介護で、その日の担当利用者それぞれにとって、今日はどうのような介護が必要かを考えて「本日のケア目標」を定め、介護している。その日々の目標の評価もその日の介護記録に記載し、情報の共有化を図り、日常の活発な意見やアイディアの交換で利用者の状況に合ったケアプランの見直しをしている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	掛り付け医院の通院や従来より馴染みの理美容院への送迎など柔軟な支援を行なっている。また、整骨院への送迎も行ない、費用は事業所負担で針、マッサージ、電気治療や機能訓練体操を受け、母体4グループホーム利用者の交流の場となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関より2週隔に往診を受け、緊急時にも適切な医療を受けられるよう支援している。利用者中5～6名は以前からの掛り付け医の治療を受けているが、利用者の心身の状況については医師同士が情報交換を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期に対する家族や利用者との話し合いをもとに理解を得ているが、利用者の状況変化に応じた段階的な合意は得られていない。	○	重度化・終末期に対する事業所の基本方針は確かであるが、「重度化・終末期の対応指針」を文書化し、利用者の状況変化に応じて、指針をもとに段階的な合意を積み重ねることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを守り、気持ちや立場を考え言葉掛けや対応に注意している。特に排泄誘導や記録の個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の場として食事と入浴については、ある程度ホーム側の意向に添って頂くこともあるが、基本的には一人ひとりのペースを尊重するよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みを把握し献立に取り入れている。調理や買物前に希望を聞き食事の一連作業に参加して頂き、楽しい食事を目指している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は決めておらず11:00~16:00の間に自由に入浴して頂けるよう支援している。入浴拒否者には無理強いせず、タイミングを見計らい週1回以上は入浴してして頂いている。全利用者は同室による全介助を原則としている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事参加を中心に能力を活かした役割を持ち、月3回以上の行事や菜園活動、パークゴルフ、ぬり絵、百人一首などのレクリエーションの楽しみを通して、気分転換を図れるよう支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の心身の状態、希望を優先し外出支援を行なっている。日常的には近場の散歩や買物に同行し季節を肌で感じ気分転換や活力の維持向上に努めている。マイクロバスを利用したドライブ、見学など行事を多く取り入れている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム長は、施錠のない自由な暮らしの大切さを理解し、合わせて利用者の生命を守る使命感を持ち葛藤している。止むなき施錠に対し利用者、家族の理解を得るとともに精神的緩和に努めている。		生命を守り施錠のない暮らしを支える方策を全職員の英知を結集し、継続検討を期待する。

北広島市 グループホーム 里の家大曲

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導と防災コンサルタントの支援を得て、様々な状況を想定した実践的訓練を行なっている。ホーム内の電気回りの定期的点検を行ない、運営推進会議で地域の協力を呼び掛けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は利用者が望む満足度を優先した食事提供を目指し、パソコン映像を通して法人母体に報告している。母体では映像と献立表をもとにカロリー1計算をしている。水分摂取量は1300ccを基準に個別に記録し、全職員が共有している。母体内全ユニットで3ヵ月隔に「食材コンテスト」を実施し、利用者本位の調理内容を競い合っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットにはそれぞれ個性があるが、いずれもダイニング兼リビングを中心に共用空間と居室が使いやすく配置されている。共同空間にはセミパブリックスペースを用意し、清楚ながら生活感、季節感を取り入れ、明るく家庭的な雰囲気有し居心地よい空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、整理ダンス、鏡台、ソファ、テレビなど使い慣れた馴染みの生活用品を持ち込み、思い出の写真や装飾品を飾り、趣味の品を置き、利用者の生活スタイルに合った居心地よく過ごせる居室になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。